

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立佐志中学校
-----	-----------

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・「よりよい佐志中学校づくりのためのアンケート」の結果から、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価していただいているものの、「佐志中学校に通って（通わせて）よかった」の質問に対して生徒は81%、保護者は91.7%であったので、今年度は生徒、保護者共に90%越えを目指す。 ・職員の共通理解のもと今年度も継続して校内研究を主軸において、授業改善を推進し、教師の指導力向上をめざし、生徒の学力向上を図る。 ・一層の生徒の意識向上を図るとともに、家庭との連携を強化することで、家庭学習の充実、スマホ利用時間の縮減等、望ましい生活習慣の形成を目指す。
------------------	--

2 学校教育目標	確かな学力を身に付け、健康で心豊かで、生きる力を持つ生徒の育成
----------	---------------------------------

3 本年度の重点目標	(1) 学力向上のために授業と家庭学習の充実を図る。 (2) 生徒理解と仲間づくりを通して人権・同和教育を推進する。 (3) SDG'sを意識した教育活動の展開を図る。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と 共通実践	●学力向上対策評価シート に示したマイプランの成果 指標を達成した教師80% 以上	・教職員間でマイプランを共有すると ともに、校内研修等により取組の促 進を図る。	B	・今年度は授業公開を中心に活動を行い、教職員間で共通理解・人選を行うことができた。学力 向上対策評価シートを生かして、これからの授業改善を図りたい。	A	日ごろの先生方の授業力向上に対す る研修には感謝します。今後もコーディ ネーターを中心にさらに学力向上に努 めてほしい。
	○意欲的に学習に臨む生 徒の育成を図る	○話し合い活動を通じて、自分 の考えを深めたり、広げたりする ことができた生徒を 80%以上にする。 ○授業に一生懸命に取り組んで いる生徒を85%以上にする。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol. 2」を踏まえ、全教科半分以上の授業 で「話し合う活動」を設定する。 ・「振り返り」を確実に設定する。	B	・話し合い活動やグループ活動を少しずつ行うことができるようになり、生徒の表現高める意識は 高まってきた。 ・「めあて」と「ふりかえり」はほとんどの授業で行うことができた。	B	さらにICTを活用しながら、より授業が 楽しいと感じるよう努めて欲しい。
	○家庭学習の習慣化	○毎日家庭学習に取り組む 生徒を80%以上にする	・教材研究として授業と関連した課題 の作成に取り組む。	B	・家庭学習の取り組みについては、「予習」や「復習」を含む授業と関連した課題を出すことがで きた教科もあったが、家庭学習に取り組んでいる生徒は70%程度だった。家庭学習の内容を改善 する必要がある。 ・タブレットをどのように活用するのか、活用の方法、方策をもう一度確認して、改善する必要がある。	B	アンケートの結果からも、最重点課題 だと思います。現在の取り組みに加え て、家庭学習においてもタブレットPCな どの活用の推進を図つたらどうか。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや 社会性、倫理観や正義感、感動 する心など、豊かな心を身に付 ける教育活動	○道徳性についてのアン ケートで肯定的な回答をした 生徒と保護者の割合をそれ ぞれ80%以上にする。	・平和教育・人権教育に関する授業 や掲示に取り組む。 ・道徳の授業や生徒会活動による心 の教育活動について学級通信などを 通して保護者に発信する。	A	・「道徳の授業などを通して豊かな心が育っている」に対し肯定的な回答をした生徒は91%、保護 者は84%と昨年度を上回る結果となった。計画的に道徳の授業を行い、生徒同士の意見の交流 の場を設けることで、多様な考えや思いがあることを知り、道徳的価値観を高められるような授業 改善をさらに進める必要がある。 ・今後も保護者や地域の方の協力も得ながら、道徳の授業に取り組んでいきたい。	A	今の子どもたちにとって大切な教育で あり、粘り強く継続的に取り組めてい る。生徒にとって身近な人を紹介しな がら大切なものを感じ取れるような工 夫を積極的に取り入れてほしい。
	●いじめの早期発見、早期 対応体制の充実	○いじめアンケートで、学校 の取組に肯定的な回答をし た生徒・保護者の割合をそれ ぞれ85%以上にする。	・毎月生活アンケートをとる。 ・生徒指導部会(週1回)と生徒理解 協議会(月1回)を通して、学年を越え た情報交換を行う。	B	・月末に「心のアンケート」を実施し、いじめの早期発見に効果的であった。何よりformsの導入が 良かったと思う。また、早期対応に努め組織的に対応できたと考ええる。心のアンケートの回収率に 関しては毎月の平均がほぼ92%となっており、ほぼ全員が提出している。一回のアンケートにか かる時間も1分以内で回答しており中間評価時と比べてもこのシステムに慣れてきている様子も 見られた。ここで集めた情報を、今後もいじめの早期発見、早期対応に役立てたいと考える。	A	いじめ報告が多いのが気になるが、早 期発見、組織的な早期対応で大事に 至らないよう取り組めていることは評価 する。大事が起こらないことを願うばか りである。
	◎キャリア教育の推進を図 る。	○将来の夢や希望する職 業を持つ生徒を72%以上 にする。	・様々な職業や学校について、紹介 する。 ・適職診断等、自分の良さや関心を もっていることについて考える機会を もつ。	B	・将来の夢や希望する職業を持つ生徒は、6月時点の第1回意識調査で58%であったものが、12月 時点で59%、2月時点で57%となった。2年生では、3回の調査で55%、59%、62%と、微増ではあるが、 職場体験学習や高校説明会を通して将来について考えようとする生徒が増えた。来年度は1、3 年生においても意欲的な生徒を増やせるような、調べ学習以外の活動を検討していきたい。	B	「将来の夢や希望に向かって努力する ことの大切さ」について、学校だけでな く皆で知恵を絞っていく必要がある。
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形 成」	○睡眠時間7時間以上、ス マホ等の使用時間2時間以 内の生徒を80%以上にす る。	・規則正しい生活やスマホ依存につ いて通信等で啓発を行う。 ・スマホの使い方について講師を招 いて講演会を行う。	B	・望ましい生活習慣の構築を図るために生徒会と一緒に考え活動を行った。内容としては、保体 給食委員の1月の活動目標を「体の調子を整えることについて考えよう」に設定した。食や運動面 から考えお昼の時間に放送を入れる取組を行った。 ・スマホの使いかたについては、唐津市警察署等から配布される掲示物を張り出したりと、注意喚 起を図った。次年度は月に1度はスマホに関するニュース等を掲示していきたい。	B	生徒への定期的な注意喚起とともに、 保護者への啓発も行い、家庭での徹 底を促す取り組みも必要である。
	○朝食の喫食率向上を図 る。	○朝食の喫食率を80%以 上にする。	・朝食の効果について、保健だよりや 給食中の放送を通して啓発を行う。 ・食育週間等に生徒に対して、朝食 に関するアンケートを行う。	B	アンケートの「毎日、朝食を食べて登校している」という項目に「あてはまる」、「だいたいあてはま る」と答えた生徒の割合は89%であり、成果指標を達成することができた。また、昨年度の78%と いう結果に関しても大きく上回ることができた。今後は朝食喫食率100%を目指し、委員会活動等 を通して、生徒と共に朝食の重要性について考え、全校に啓発していきたい。加えて、朝食がもた らず効果について家庭へ働きかけ、喫食率の向上を推進していきたい。	A	朝食の効果についての啓発とあわせ て、個別相談も行われていて素晴らし い。
●業務改善・教職 員の働き方改革の 推進	●業務効率化の推進と時 間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げ る時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議等のペーパーレス化を推進し、 会議等の効率化を図る。 ・部活動休養日の設定を徹底する。 ・部活動休養日を定時退勤日とする。	B	具体的取り組みについてはほぼ達成できている。また、職員の働き方改革の推進への肯定的な 評価は昨年度の60%から96%と大幅に増えた。早目の退勤の声掛けを含め、今後も改善する余 地や可能性のある業務を広く柔軟に意見を求め、それを検討し実践することで、一層の改善を推 進する。	B	激務の中、様々な取組がなされ感謝し ている。教職員の負担軽減を図るには 行政の支援が必要であることは承知し ている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○SDG'sの推進	○全教科・領域において、 SDG'sを意識した教育を展 開する。	○3つ以上のSDG'sを意識 して生活を送ることができ ている生徒の割合を90%以 上にする。	・全教科・領域において、また教科横 断的にSDG'sを扱う単元開発を積極 的に行う。	B	・企業と連携した「服のチカラプロジェクト」では、約3000枚の子ども服を回収することができ、仕分け作業・出荷作業・報告書 の作成・発行まで生徒たちが主体となって活動することができた。事後アンケートでは、9割以上の生徒が取り組んでよかつ た。SDGsの目標達成に貢献できたと回答していた。来年以降も生徒会本部を中心にSDGsの具体的な取り組みを続けてい きたい。 ・部分的ではあるが教科間のつながりを感じて学習に取り組む姿が見られた。しかしまだまだ達成しているとは言えない。引 き続き校内研で作成されたESDをもとに取り組みを推進していきたい。	A	・SDGsについて身近な例を取り上げ、意識付 けや活動につながるような取り組みを続けて 欲しい。 ・「服のチカラプロジェクト」は素晴らしい取り組み です。生徒の自信にもつながったことと思い ます。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・「佐志中学校に入学してよかった」に肯定的な回答は生徒95%、保護者91%であった。来年度も生徒・保護者ともに90%を超えることを目指す。 ・研究指定、推進校4年目となり職員一丸となって学力向上に向け授業改善に取り組んだものの、各教科において十分な基礎・基本の定着までは至らなかった。現状をしっかりと分析し、学力向上に向 けさらに研究を推進していく。 ・スマホの利用時間の長さは全国調査の結果からもうかがえ、家庭学習の充実にも影響を与えていると思われる。「スマホの利用時間2時間以内、睡眠時間7時間以上」についてのアンケート結果は 生徒57%、保護者40%と依然低く、スマホ利用に対する生徒の意識改善と家庭との連携強化を図ることで、スマホ利用時間の縮減と望ましい生活習慣の形成を目指す。 ・教師による回答では、業務改善・働き方改革に対する肯定的な回答が94%と昨年を大きく上回った。今後も改善する余地や可能性のある業務を洗い出し、一層の改善を推進する。
--------------------	---